

## 独立行政法人の平成 13 年度業務実績に関する評価の結果についての 政策評価・独立行政法人評価委員会の第 1 次意見について

平成 14 年 1 1 月

### 1 背景

独立行政法人制度では、法人の自主的・自律的な運営による効率化や質の向上を図るため、その運営について、国が事前的・画一的に統制を行う仕組みではなく、目標を設定し、その達成状況を事後的に評価する仕組みを導入。

このように、法人の業務実績に関する事後評価が極めて重要となることから、評価の客観的かつ厳正な実施が確保できるよう、第三者による外部評価の仕組みとして、

各府省の「独立行政法人評価委員会」が所管法人の評価を行い、その評価結果について、総務省の「政策評価・独立行政法人評価委員会」が、評価内容の妥当性、評価手法の適切性等の観点から評価を行い、問題点、改善の余地や優れた評価事例等について二次的、横断的観点から意見を述べる、  
という二段階の評価システムを整備。

今回、平成 13 年度業務実績に関し行われた評価が、制度発足後初の評価

### 2 平成 13 年度評価の経緯

平成 14 年 6 月末までに各独立行政法人から平成 13 年度業務実績報告書提出

8 月から 10 月にかけて、各府省の「独立行政法人評価委員会」が以下のとおり評価結果を取りまとめ、ホームページ等で公表

経済産業省委員会（5 法人）	8 月上旬
内閣府評価委員会（1 法人）	9 月下旬
環境省委員会（1 法人）	9 月下旬
財務省委員会（1 法人）	9 月下旬
国土交通省委員会（11 法人）	9 月下旬

総務省委員会（2 法人）	9 月下旬
厚生労働省委員会（3 法人）	9 月下旬
文部科学省委員会（16 法人）	10 月上旬
農林水産省委員会（17 法人）	10 月下旬

これらの評価結果について、「政策評価・独立行政法人評価委員会」では、3つのワーキング・グループを設けて集中的に評価作業を実施し、今般、その第1次意見を取りまとめ

平成14年11月19日（火）に、各府省の独立行政法人評価委員会に本意見を述べる（通知）とともに公表

### 3 第1次意見の概要

#### (1) 第1次意見の考え方

横断的観点も含めた評価はなお継続中であるが、当委員会が述べる意見を、各府省独立行政法人評価委員会の評価結果とともに可能なものについては法人の業務運営、予算、人事等に早期に反映させる観点から、予算編成スケジュールを勘案し、現段階で取りまとめたものを第1次意見として述べたもの

各府省独立行政法人評価委員会の評価において、独立行政法人に求められる以下の点が客観的かつ厳正に評価されているか、その基礎となるデータが適切に取り扱われているか等の視点から評価を行い、問題点、改善の余地や優れた評価事例等について意見

業務の方向性や経営戦略が法人のミッションに照らし適切かつ明確であり、業務運営がそれに基づき適切かつ効果的に行われ、サービスの向上が図られること

財務内容が健全であること

業務運営の効率化等のコスト削減努力が着実に行われること

各府省独立行政法人評価委員会の評価結果及びそれに対する当委員会の意見については、平成14年度業務実績評価と合わせて、その反映状況をフォローアップ

## (2) 第1次意見の主な内容

全体

95項目(51法人)

うち、各独立行政法人評価委員会の評価結果につき

### 【問題点、改善の余地等の指摘】

- ・ 今後、有効な評価を行い得るようにする視点から、法人の年度計画や予算の在り方等に言及するもの  
例～相当割合の予算未執行の経費がある場合の予算上の処理の明確化  
～有効な評価を可能とするための計画及び予算の詳細化 等 10項目(9法人)
- ・ 重要な観点や項目の付加の余地等を指摘するもの  
例～個々の研究の進捗状況に及ぶ評価の実施  
～業務の一部しか効率性向上の評価の対象とされていない、財務内容が評価されていない等の場合の評価対象の拡大 等 9項目(9法人)
- ・ より厳格ないし突っ込んだ評価の余地を指摘するもの  
例～人員・人件費の一層の効率化余地に及ぶ評価の実施  
～業務の重点化・効率化の要請、顧客のニーズ等をより明確に捉えての評価の実施  
～地方組織毎の業務、財務内容の分析を含む評価の実施  
～外部委託による効率化効果等の厳格な点検に基づく評価の実施 等 69項目(50法人)

### 【優れた評価事例の指摘】

- 各府省独立行政法人評価委員会における積極的な評価の取組みにつき、その一層の推進を要望するもの  
例～業務の重点化、学生の定員そのものを含めた業務の見直し等法人における業務運営・効率化の方向性に言及 7項目(7法人)

## 4 今後の対応

第1次意見に引き続き、今後、各府省横断的な検討を要する論点等について議論を深め、早急に第2次意見として取りまとめ